

これまでの総合部会における主な意見について

平成24年度以降の総合部会（政策委員会との合同会議を含む）で出された、地震調査研究成果の普及展開方策に関する主な意見は以下の通りである。

広報の目的と対象

- 我々が目指すところは、行動変容を起こすために地震本部の成果を知ってもらい、実際に防災対策に変容を起こしてもらうことだろう。
- 地震調査研究の一番の活用者は、社会基盤整備だと思う。国民目線を非常に考慮しているが、社会基盤があってこそその避難である。
- 土木も大事だが、土地利用の誘導や建築物の耐震化につながっていくことだ。
- 実際の行動につなげていくには、社会教育まで入っていかなければならない。しかし理科教育から社会教育につなげていく役割が、今の地震本部にはない。
- 利活用の相手は、社会基盤や、工学、それから、理学そのものである。成果とは単に何枚かの図だけでなく、地震本部の全ての制度や、得られたデータ及び計算方法も含む。

普及啓発の具体的方法

- 東日本大震災の発生により関心が高まっているので、特にマスメディアとうまく連携しながら広報していくという普及方策と、地道に地域の防災リーダーや一般の人に分かりやすい形で提供するという普及方策がある。
- 外部の人の目で広報を考えていくのはとても良いことだ。広告代理店、あるいはもしかしたら我々の防災や行政とあまりかかわりのない人に入ってもらうのも良いだろう。
- 小学生でも分かるように説明することはできるし、高校生になれば、そのメカニズムを含めて伝えられるようになる。利用者別に、何を目的にし、それを達成するために、研究成果をどう活用するといいか、利用者の立場で話をするようなモードにすると良い。

地震動予測地図等の伝える内容と伝え方

- 科学的知見の限界をどのように伝えていくかについても触れなければならないのではないかな。
- 確率は難しいから諦めるというのは間違いで、確率がどのように普通の生活の中に関係しているかが、地図の中で分かるものを作らなければならない。
- 地震動予測地図を一般の人に身近に感じてもらえない一つの理由は、この地図が無機的に見えるということではないか。一般の人に対して、作成している側の何らかの思いを伝えるような切り口もあると感じた。
- 地図の中に地域ごとの災害教訓を織り込んでいくとどのように見えてくるかといったことを少し検証して、防災意識の向上につながるようなものを作成し、無機的に見えない

ようにする工夫が必要ではないか。

- 国民一般の立場からすれば、自分の住んでいるところで、過去どういう地震が起きたのか、自分のところで地震が起きると一体どういうことが起きるのかを知りたい。過去の地震の写真やどういう揺れがあったのかが具体的にわかるような附属情報を盛り込むことが重要ではないか。
- 日本は地震がよく起きて危ないということだけ伝えても、日本の防災力は上がらない。より多くの方たちの基礎知識を上げてもらうために、丁寧に説明していく必要がある。

関係省庁との連携

- 防災には4つの柱がある。(1)自然現象としての災害理解、(2)被害抑止、(3)被害軽減の3つは事前の備えであり、(4)災害が起きたときにどう対応するか、が加わる。各省庁は、自己完結型で色々な情報を提供しているが、4つの全体像はわかりにくいので、役割分担と相互連携により、全体像をきちんと市民が理解できるような形にしていくことが必要。
- 地震本部が関係省庁と十分に連携を図ることを念頭に、ここまでは地震本部としても積極的に進めていくといったはっきりした切り分けをしなければ、研究者や、企業向け、一般国民向けの広報がおのずと違ってくる。
- 災害対応の標準化を進める中で、ベースとなるものは内閣府がやるべきだと思う。ただし調査研究の広報については位置づけをはっきりさせながら、政府としてどう広報していくのか考えていく必要がある。
- 内閣府で、いろいろな研究成果を一本化し、国民に現段階の状況を知らせる場所を提案しても良いと思う。
- 内閣府等が行っている被害想定と、地震本部での研究成果をどうマッチングし、広く社会に伝えていくかということはずっと議論の種になっていた。政府全体として、地震調査研究と具体的な対策とをどうセットを進め一本化し、情報提供していくか、きちんと議論をしていかなければならない。

地方への普及啓発

- 特に西日本など、ふだん揺れない地域では、関心を集めるのは難しい。広報等含め、そういう地域への戦略をどこかで議論した方が良い。
- 地方公共団体は、確率評価や活断層の評価結果等について、具体的な活用法をよく分かっていない面が多いが、活用の仕方はいろいろあると思う。具体例が示されると良い。
- 地方公共団体はホームページを持っているが、地震本部のページにも有用な情報があるので、リンクを張ってもらうことを、こちらから積極的に呼びかけることが重要。